



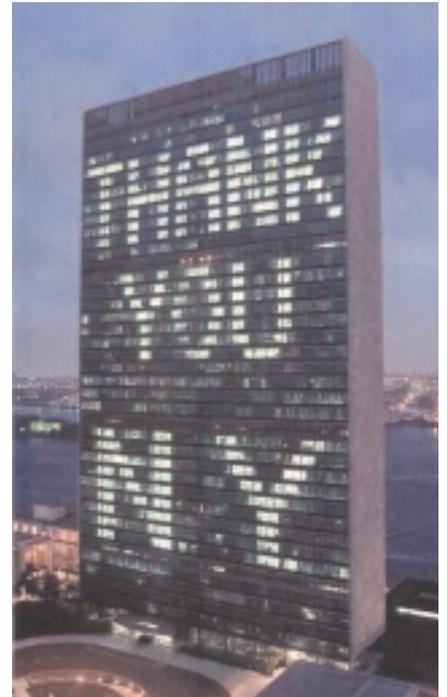
UNIC Tokyo Dateline UN

September 2000 Vol.14

国際連合広報センター



ミレニアム総会のハイビジョン・スクリーンによる中継が、NHKの協力で可能となりました。(写真左、写真提供：NHK)



国連ミレニアム・サミット開催地のニューヨーク市民に感謝の意を表してライトアップした国連本部ビル

ミレニアム・サミット

21世紀の国連の役割に関する明白な方向性が示される

来る10年間の大きな挑戦に取り組むため、150以上の国から元首・首脳が9月6日から9日まで、ニューヨークの国連に結集しました。このミレニアム・サミットは、史上最大の世界指導者による会合となり、そこでは「21世紀の国連の役割」という公式テーマの下、数多くの問題が話し合われました。もっとも大きな挑戦として議論された問題には、いかにして数十億の人々を極貧状態から救い出し、国連の平和活動を強化し、世界の環境問題により効果的に取り組むかがあげられます。

ミレニアム・サミットはアナン事務総長が1997年の報告「国連の再生：改革に向けたプログラム」で提案したもので、1998年12月、国連総会によって正式に承認されました。総会は、新世紀の到来が「新時代の国連に活力を与えるビジョンを明確に表明し、確認するためのユニークで象徴的意義のある機会」との確信のもと、第55回総会をミレニアム総会に指定し、ミレニアム・サミットを開催することを決定しました。

事務総長は4月、サミットに向けて「ミレニアム報告書」を発表し、グローバル化を世界各地の人々に資するものとするための行動計画を示しました。その報告書の中で、アナン事務総長は世界の指導者に対し、2015年までに極貧状態に暮らす人々の割合を半減させること、HIV / エイズの蔓延を食い止

INSIDE

ミレニアム宣言	2
ミレニアム・サミット閉会	3
京都ミレニアム会議	3
国連文明間の対話年	5
国際識字デー	6
新所長就任記者会見	6
国連軍縮秋田会議	7
新所長就任ご挨拶	8

<http://www.unic.or.jp>



第55回国連総会(ミレニアム総会)議長のハッリ・ホルケリ氏(フィンランド、写真中央)



安全保障理事会元首・首脳級会合(9月7日)。西ティモールで殉死した三名の国連職員の冥福を祈り黙祷する理事会メンバー



ミレニアム・サミットで演説する森首相



今回 189 番目の国連加盟国となったツバルの国旗(中央)

め、その流れを逆進させ始めること、および、すべての青少年に平等に基礎教育を提供することを含め、数多くの目標の達成を公約するよう要請しました。ミレニアム・サミットでは、ナミビア(第54回総会の議長国)のサム・ヌジヨマ大統領とフィンランド(9月5日に開会予定の第55回総会の議長国)のタルヤ・ハロネン大統領が共同議長を務めました。サミットでの正式な演説に加え、各国の指導者は4つの双方向円卓会議のいずれかに参加しました。各会議の主な焦点は、第一回円卓会議(議長国:シンガポール)--グローバル化とその影響、第二回円卓会議(議長国:ポーランド)--貧困、疾病、暴力、民主主義の欠如、および人権、第三回円卓会議(議長国:ベネズエラ)--加盟国間の協力と国連が果たす役割の強化、そして第四回円卓会議(議長国:アルジェリア)--テロリズムや債務帳消しなどの緊急に対応を要する様々な国際問題です。

また、サミット期間中の9月7日には、元首・首脳レベルの安全保障理事会会合が開かれ、特にアフリカにおける平和維持問題を中心とした話し合いが行われました。安保理での討議は、平和維持活動強化を検討するために事務総長が設置したパネルの報告書に基づくものとなりました。

事務総長はまた、各国元首・首脳に対し、サミットの機会を捉え、国連の主要目標を体現する25の中核的条約をはじめとする多国間条約の締約国となるよう求めました。その結果、サミット期間中、85の国が40の国際条約に署名、加入あるいは、事務総長に対し批准書を寄託しました。これら条約の中には、国際刑事裁判所、地雷、女性と子どもの権利および気候変動に関するものが含まれています。国連経済社会理事会は同じくサミットの開催中にその運営事務局の元首・首脳レベルでの会合を初めて開き、貧困を撲滅し豊かな国と貧しい国との間をより一層隔てている「デジタル・デバイド」(情報技術の格差)を解消するためには、あらゆるレベルで協力が緊急に必要である、と指摘しました。また、国連がこれに対し中心的な役割を果たすべきだという点で合意がなされました。

国連ミレニアム宣言(要旨)

ミレニアム・サミットは国連の今後の役割に関して以下の宣言を採択し、9月8日に閉幕しました。宣言全文の非公式訳は当センターのホームページ <http://www.unic.or.jp> に掲載しております。

価値と原則

- ・ 新しい千年紀の幕開けに際し、各国元首・首脳は、世界の平和、繁栄、公正さの不可欠な基盤は、国連と国連憲章にあることを再確認した。
- ・ グローバル化を全世界の人々にとってプラスの力とすることが私たちの中心的課題である。
- ・ 自由、平等、連帯、寛容、自然の尊重および責任の分担が21世紀の国際関係に不可欠な基本的価値と考える。

平和、安全および軍縮

- ・ 法の支配の尊重を強化し、国際司法裁判所の判決に従う。
- ・ 国連に必要な材料と手段を提供し、平和と安全を維持する国連の実効性を高める。そのために国連平和維持活動に関するパネルの報告書の勧告を速やかに検討する。
- ・ 国際刑事裁判所ローマ規程の署名、批准を呼びかける。
- ・ 罪の無い人々に対する国連経済制裁の悪影響を最小限にとどめる。

- 核兵器をはじめ大量破壊兵器の廃棄に努力する。また、小・軽火器の不正取り引きを終わらせる。

開発と貧困

- 開放的で、公正で、ルールに基づいた多国間貿易・金融システムを約束する。
- 後発開発途上国の特殊なニーズに取り組むため、以下のことを先進国に求める。
 - これらの国々からの輸出品の無税・無制限のアクセスを認めること。
 - 債務軽減プログラムの拡大、および
 - 貧困削減に真摯に取り組む国への開発援助の増大。
- 2015年までに、1日に1ドル未満の収入で暮らす人々と、安全な飲み水が手に入らない人々の数を半減させる。HIV/エイズやマラリアなどの病気の蔓延を抑止する。
- 男女平等、女性のエンパワーメント、若者の職場の拡大、および情報通信技術の提供を確実に実行する。

私たちが共有する環境の保護

- 京都議定書の2002年発効をめざし、森林を保護し、砂漠化を防止し、水資源の持続可能な開発を推進する。
- ヒトゲノム情報への自由なアクセスを確保する。

人権、民主主義および良い統治

- 民主主義を促進し、法の支配、発展の権利を含む全ての人権と基本的自由を強化する。

弱者の保護

- 自然災害や人道的緊急事態の大きな影響を受けている子供と一般市民に対して援助と保護を提供する。

アフリカの特殊なニーズへの対応

- 民主主義の強化、恒久的平和、貧困撲滅、持続可能な開発を求めるアフリカを援助し、世界経済の主流への参加の手助けをする。

国連の強化

- 国連の効率性を高めるため、その主要機関である総会、安全保障理事会、経済社会理事会、および国際司法裁判所の役割を強化する。特に、安全保障理事会の包括的な改革を達成するための努力を強化する。
- 国連の目標とプログラムの実現に貢献すべく、各国の国会議員との協力を強化し、非政府組織（NGO）、民間企業、および市民社会に多くの機会を与える。

国連ミレニアム・サミット閉会

9月6日から3日間にわたって開催された国連ミレニアム・サミットが9月8日閉幕しました。以下はミレニアム・サミットの閉会にあたりコフィー・アナン事務総長が行った声明です。

この歴史的なサミットに参集し、今後の明確な道筋を描いていただいた皆様に対し、感謝いたします。これまでの3日間、私は注意をもって、皆様すべての声を聞くとともに、皆様が採択したばかりの宣言を、慎重に拝読させていただきました。私たちが直面する課題について、注目すべき見解の収束が



国連ミレニアム京都会議

8月4日、「21世紀への提言・国際社会の潮流と文化」をテーマにした「国連ミレニアム京都会議」が国立京都国際会館で開催されました。会議を主催したのは、日本国連協会京都本部、京都新聞、国連広報センターなどで、開会式においては法眼健作国連広報担当事務次長がアナン事務総長からのメッセージを盛り込みながら国連ミレニアム・サミットを中心に挨拶を述べました。

主催者側を代表して坂上守男日本国連協会京都本部理事長が挨拶のなかで京都シンポジウムの主旨を説明した後、来賓の京都府知事と京都市長が挨拶を述べました。シンポジウムは二部構成でなり、第一部では茶道裏千家家元の千宗室氏（日本国連協会京都本部長も兼ねる）、日本予防外交センター会長の明石康氏、元韓国外相の孔魯明氏がそれぞれ「茶道を通じての国際平和」、「国際社会の潮流と国連」、および「朝鮮統一とアジアの平和」というテーマで基調講演を行いました。第二部のパネルトークは「朝鮮統一とアジアへの波紋」、「国際社会と国連の将来」および「21世紀への提言」

4ページへ続く

3 ページの続き

という異なる三つのテーマを含み、各テーマに関して明石氏、孔氏に小此木政夫慶応大学教授、中西輝政京都大学教授が加わり、須藤眞志京都産業大学教授をコーディネーターとして、議論が展開されました。



国連を代表して参加した
法眼健作広報担当事務次長

見られたこと、そして、皆様が緊急に行動を要請されたことに、私は感動しています。皆様は、極貧状態の根絶が最優先の課題であることを表明しました。そしてこの問題について、具体的な目標を設定し、これを達成するための措置を策定しました。これらの措置が実際に講じられれば、目標の達成が可能であることは明らかです。

グローバル化の潜在的な恩恵を理解しながらも、自国民がそれを実感できていない、と皆様の多くは訴えました。その解決策の一部は主権国家の手中にあり、その国民、特にもっとも貧しい人々のニーズを最優先させなければならないことがサミットでは認識されました。また、私たちは、国家だけではグローバル化の諸問題を解決できないことも承知しています。国家は民間セクターおよび市民社会との間で、もっとも幅広い意味でのパートナーシップを築く必要があります。

しかし、皆様はまた、すべての国々が公正な競争の機会を有し、持てる者が持たざる者のためにより多くのことをなすような、より公平な世界経済を求めました。発言者は次々に、貧困国をその債務負担から解放する緊急性を強調しました。皆様は、債権者と債務国の利益を均衡させるような調停あるいは仲裁のシステムを含め、この問題に対する新たなアプローチを模索することへの関心を表明しました。私はこの意見をさらに検討し、これが実施できる方法を提案する所存です。皆様は、私たちが新たな世紀を迎えようとする中で、女性と子どもをはじめとする数百万の無実の人々が、依然として残酷な紛争の犠牲となり続けていることは容認できないと述べました。この分野において、国連が世界の期待に応えられていないことは、周知の事実です。私たちは自らの能力を強化し、実績を改善することで、脆弱なコミュニティが窮地に陥っている時に、私たちが頼りにできると感じられるようにしなければなりません。国連平和活動に関するパネルの報告書を皆様が歓迎し、その勧告に対して迅速に対応することを約束した理由は、まさにここにありま

す。皆様は、私たちのグローバル社会の共通言語となっている国際法の重要性を再確認しました。サミット期間中、国連憲章の精神に中心的な位置を占める国際法文書に加入の措置を講じた国々は、80か国を超えました。多くの国が新たに加入したものは、全人類に恥辱をもたらす虐待から子どもたちを保護しようとする議定書に関するものです。皆様の行動は、人類が遂に、その終焉に向けて結束したことを示す歓迎すべき徴候です。貧困とそれに伴うあらゆる影響がもっとも深刻となっているアフリカの特殊なニーズに対し、より高い優先度を与えることが、サミットでは求められました。

皆様はまた、国連システムを手始めとして、国際機関の実効性を高める必要があると述べました。皆様のお考えでは、明らかに、私たちがともに3年前に開始した改革が完了していないとのことでした。私も同じ意見です。そしてこれをさらに推進するために皆様と協力していきたいと思っています。皆様の大半は、安全保障理事会の包括的な改革を求めました。これを機に、困難であっても避けては通れないこの問題で、合意の形成に向けて新たな勢いが生まれることになりましょう。皆様の国連の実効性に対する懸念は、もっともなことです。皆様は行動を望んでいます。とりわけ、成果を望んでいらっしゃる。皆様の考えは正しく、私は来る1年間を通じ、21世紀の国連が世界の人々の生活に実質的な改善をもたらせるようにするため、皆様と協力していきたいと思



サミットで演説するアナン事務総長



ニューヨークへの感謝の意をこめた
国連本部ビルのライト・アップ

るために、明確な方向性を示しました。しかし、究極的には、国連は皆様自身なのです。皆様が定めた目標を達成することは、皆様の能力の範囲内にあり、よって、皆様の責任といえます。国連がこの挑戦に立ち向かえるかどうかを決定できるのは、皆様をおいて他にないのです。私としては、まさにきょうから、皆様からいただいた任務に再び専心することを、ここにお約束します。国連職員も全員、同じ気持ちでいることと理解しております。

国連文明間の対話年（2001年）

国連総会は、2001年を「国連文明間の対話年」と宣言しています。（1998年11月4日の決議53/22）国連は各国政府、国際機関および非政府組織（NGO）に対し、文明間の対話という概念を広めるため、会議やセミナーの開催、情報や学術資料の頒布を含め、文化的、教育的および社会的プログラムを企画し実行していくことを促しています。（1999年12月10日の決議54/113）すべての社会の構成員が、この国際年の謳っている文明の対話の促進に参加することを求められているのです。

以下は第55回国連総会開幕日（9月5日）の「文明間の対話に関する会合」に寄せられたコフィー・アナン事務総長の演説です。

「私はまず、国連と全世界で「文明間の対話」の実現にむけてすばらしい指導力を発揮されてきたハタミ大統領閣下に敬意を表したいと思えます。大統領、これほど多くの国の元首・首脳がきょう、ここに一堂に会していることは、閣下の人間的で寛容なグローバル社会のビジョンに対する賛辞の表れといえましょう。私はまた、きょうの特別行事の開催にあたり中心的役割を果たしてこられた松浦晃一郎事務局長をはじめとするユネスコ職員の方々にも、謝意を表したいと思えます。ミレニアム・サミットの開会を明日9月6日に控え、このような重要な会議に参加できたことは、私にとって名誉であり、かつ、喜びでもあります。事実、サミットの道徳的・精神的基盤として「文明間の対話」を話し合うこの会合以上のものは、考えられないでしょう。国連自体も、対話は不和を克服し、多様性は普遍的な美德であり、世界の諸民族はその異なるアイデンティティーで分裂するよりも、はるかにその共通の運命によって結び付けられているのだという信念の下に創設されたものだからです。

国連は、まさに文明間の対話の場となることができます。そこでは、対話が花開き、人間の試みがあらゆる分野で開花することでしょう。2001年が「国連文明間の対話年」と宣言されたことを私が暖かく歓迎した理由はここにあります。すべての国家間で、すなわち各々の文明、文化および集団の中で、ならびに、それらの間で、日常的な対話がなされなければ、いかなる平和も続くことができず、いかなる繁栄も確保されません。これは国連が最初の半世紀で学んだ教訓です。私たちがこれを無視することはできません。

私たちはまた、この歴史から、諸文化の無限な多様性と並んで、人類の思想と信条が溶け合い、平和かつ生産的に発展する、たった一つのグローバル文明が存在することを学ぶべきです。それは、次のことによって定義される文化でなくてはなりません。すなわち、意見の相違に対する寛容、文化的多様性の賛美、基本的かつ普遍的な人権の堅持、および、各地の人々が自らの統治方法について発言する権利に対する信念です。それはまた、新世紀を迎えるにあたり、私たちが擁護し促進しなければならない文明なのです。

国連事務局といたしましても「文明間の対話」を推進しており、その具体的



ミレニアム総会開幕直後に行われた「文明間の対話」に関する会合。左端はイランのハタミ大統領。

国連クイズ

以下の軍縮に関する用語の日本語訳を考えてみて下さい。

- 1) Disarmament and International Security Committee (the First Committee)
- 2) UN Disarmament Commission
- 3) The Conference on Disarmament
- 4) Chemical Weapons Convention (CWC)
- 5) Comprehensive Nuclear-Test-Ban Treaty (CTBT)
- 6) UN Department for Disarmament Affairs
- 7) UN Institute on Disarmament Research (UNIDIR)
- 8) Treaty on the Non-Proliferation of Nuclear Weapons (NPT)
- 9) Convention on the Prohibition of the Use, Stockpiling, Production and Transfer of Anti-personnel Mines and on Their Destruction (Ottawa Convention)

国連広報センター 新所長、高島肇久氏 就任記者会見

国連広報センターは、就任初日の9月1日、高島肇久（たかしま はつひさ）氏の記者会見を日本記者クラブの宴会場で行いました。国連広報センターの所長は、日本において国連本部事務局を代表する「国連の顔」として、国連の多岐にわたる活動を広報し、国連活動の理解を深めるために非常に重要な役割を果たします。高島氏は、1958年のセンター設立以来、12代目にして初の日本人所長だということもあり、記者会見では彼自身の今後の抱負に関心が寄せられました。また、ミレニアム・サミットが9月6日から国連ニューヨーク本部で開催されるということもあり、サミットの意義とグローバル・コンパクト（詳しくは ページを参照）などの国連が打ち出している一連のイニシアチブに関しても記者団から質問がなされました。



質問を受ける高島所長(中央)

な努力は、私の個人特使であるジャンドメニコ・ピコ氏が主導しています。同氏は、その責任の一つとして、来夏、私に提出される予定の報告書に盛り込まれる問題の枠組みを作るため、賢人会議を招集しました。私はこの報告書を、対話に対する私たちの貢献として、総会に提出するつもりです。このような対話は、お互いのつながりが高まる世界の中で、私達は多様性を資産として活用しなければならないという認識から始まることになりましょう。事実、戦火の火種はまさに、多様性を脅威として認識することにあるのです。多様性は文明間の対話にとっての基礎であるばかりでなく、対話を必要にさせる現実でもあります。

私は、この報告書、および、人類にとって大変重要なこの対話を進展させようとする私たちの共通の努力に対し、今回の会合が大きく貢献するものと確信しています。それは間違いなく、南アフリカで来年、開催予定の「人種主義、人種差別、排外主義および関連の不寛容に反対する世界会議」に指針と着想を提供するものともなりましょう。私は、皆様全員が、この極めて重要な問題について貴重な貢献を行ってくださることと理解しております。つきましては、以下の考えをもって発言を締めくくりたいと思います。私たちはきょう、この問題に関する実質的で実りある意見交換を行うことにより、真の文明間の対話をもつ価値を立証できるものと期待します。」

国際識字デー（9月8日）

「すべての人は、教育を受ける権利を有する」と世界人権宣言は明言しています。国連では、ユネスコが先導しながら識字率を上げる努力が行われています。以下は、国際識字デー（9月8日）に寄せるコフィー・アナン事務総長メッセージです。

私たちはきょう、21世紀最初の「国際識字デー」を迎えます。それは、あらゆる人々の間の寛容、理解および平和の促進における識字と教育の力を祝う機会です。それはまた、世界中の貧しく傷つきやすい人々の生活を改善し、地球上のあらゆる生命を守る上で、計り知れないほど多くの利益をもたらすであろう投資への私たちの言質を新たに作る機会でもあります。

よりよい世界を作り出そうとする私たちの試みはすべて、識字と教育を基盤としなければなりません。識字者は、よりよい選択を行い、より充実した生活を送る力を得ます。そして生産的な労働者となるのです。経済の発展も、社会の進歩も、人間の自由も、すべてが世界のあらゆる国々における基礎的な識字レベルの確立にかかっているのです。

今日、成人非識字者の数は全世界で8億8,000万人に及んでいます。その3分の2は女性です。基礎教育を受けられない1億1,000万人以上の子どものうち、3分の2が少女です。これまでの経験から言えば、少女の教育に投資し、その結果として女性のエンパワーメントが強化されることは直接、その家族、その地域社会、さらに結局はその国にとっての栄養、保健および経済実績の改善につながります。私が9月6日から始まるミレニアム・サミットで、少女の教育を優先課題とするよう世界の指導者に要請したのは、このためです。

前世紀を振り返ってみると、喜ぶべき成果がいくつか見られました。過去30年間で、世界の成人非識字者の割合は着実に低下しました。次世紀には、この成果をさらに深めなければなりません。新しい千年紀最初の国際識字デーを迎えるに際し、識字に対する権利は普遍的であることを認識しよう

はありませんか。そしてきょう、9月8日のミレニアム・サミットを閉会するにあたり、識字は、恐怖からの自由、欠乏からの自由、および、地球上における私たちの生命の維持という私たちの目標を達成する上で、必要前提条件であることを確認しようではありませんか。地球上から非識字を無くすために、たゆまぬ努力を続けてゆこうではありませんか。

国連軍縮秋田会議閉幕

「21世紀の軍縮と国連：その戦略と行動」のテーマのもとに国連軍縮会議が8月22日から25日まで秋田市で開催されました。この会議では、おもにアジア・太平洋地域22カ国の政府、研究機関、非政府組織（NGO）、マスコミを代表する64名の参加者が、平和と安全のための戦略、国連の役割、軍縮と平和へのアプローチ、朝鮮半島、2000年核不拡散条約（NPT）再検討会議の成果、核兵器国の役割、戦略兵器削減交渉（START）プロセスと原子力の平和利用、小火器などの問題について自由かつ活発な意見の交換を行いました。また、同会議中、平和の建設には若者の参加が不可欠との認識のもとに、市内の中学生を対象に「次世代につなぐ平和」に関するシンポジウムも開催されました。

国連軍縮秋田会議の閉会にあたって、国連アジア太平洋平和軍縮センター所長の石栗勉氏によって秋田会議の成果が以下のようにまとめられています。

- 1) 21世紀においても国連が引き続き重要であることが明確に認識され、明石康・前国連事務次長は、国連が貢献しうる領域として国際世論の形成、情報交換、国際規範の設定、平和維持活動や人道的援助のような現地活動の4つを指摘しました。
- 2) 国連軍縮秋田会議も含め、地域の安全に関する対話が果たす役割は、危機や侵略の回避を可能にする「信頼」もしくは「共同体意識」を醸成することであるとの認識が見られました。
- 3) 冷戦後、安全保障についての認識体系が拡大され、その対象も部分的に国家から人間へと変わりました。チュラロンコン大学（タイ）のクスマ博士は、人間の安全保障とは「人間が暴力的、非暴力的脅威から安全であること」と定義づけました。
- 4) 朝鮮半島に関しては、南北二国間で行われた最高レベルでの接触が、緊張緩和と信頼醸成の実現の可能性を強めるものとして、ある種の楽観的な見解が表明されました。
- 5) 核不拡散条約（NPT）再検討会議の評価については、NPTの本来の目的は核の不拡散を促進し、核軍縮を達成することであることが再確認されました。
- 6) 米本土ミサイル防衛計画については、激しい討論が行われました。これに関連し、ジュネーブ軍縮会議では「宇宙空間における軍備競争の防止」に関する意見の不一致のため、この問題に関する作業に進展が見られないとの報告がありました。
- 7) 現在、世界各地に見られる新しいタイプの武力紛争では主に小火器が使用されており、小火器の過剰供給問題に対処するため、国際社会は持続した努力を行うことが不可欠です。

秋田会議の成果が、国連の軍縮会議を含め軍縮に関する様々な討論の場において十分に活用されるよう期待されています。国連軍縮会議は国連アジア太平洋平和軍縮センターが主催するもので、1989年に最初の会議が京都で開



秋田軍縮会議の様子

5 ページのクイズの答え

- 1) 軍縮・国際安全保障委員会（第一委員会）
- 2) 国連軍縮委員会
- 3) 軍縮会議
- 4) 化学兵器禁止条約
- 5) 包括的核実験禁止条約
- 6) 国連軍縮局
- 7) 国連軍縮研究所
- 8) 核不拡散条約
- 9) 対人地雷の使用、貯蔵生産および移譲の禁止並びに廃棄に関する条約（対人地雷禁止条約）

Visit our website
<http://www.unic.or.jp>

催されて以来、仙台、広島、長崎、札幌と、この12年間に日本国内の各地で毎年開かれてきました。(詳しい会議のまとめは当広報センターのホームページ <http://www.unic.or.jp> に掲載されています。)

「国連・新たな出発」 ～ご挨拶にかえて～

国際連合広報センター 所長 高島肇久

「国連ミレニアム・サミットと国連総会とはどう違うのですか？」私が所長に就任した9月1日以来、東京の国連広報センターにはこんな質問が毎日何回となく寄せられました。西暦2000年。新しいミレニアム(千年紀)の今年の国連総会は、例年の総会とは違うものにしようというアナン事務総長の目論見が見事に成功して、国連ミレニアム・サミットとそれに続くミレニアム総会は、日本でも多くのメディアによって連日大きく取り上げられました。

中でも世界160カ国の首脳が3日間、文字通り膝を交えて議論をかわしたサミットは、アナン事務総長が「私は感動した」という声明を発表したことで示されるように、まさに歴史に残る画期的な出来事でした。その成果は、この広報誌や広報センターのホームページにのせてありますので是非お読みください。新しいミレニアムと新しい世紀のはじまりにあたって、各国首脳と国連が、紛争、貧困、疫病、差別、格差、環境破壊など人類が直面するさまざまな課題に、新たな決意を持って取り組んで行くこと誓い合ったことがお分かりいただけると思います。

今回のサミットではもう一つ画期的な出来事がありました。総会会議場の写真をご覧ください。普段は投票結果の電光掲示板があるところに、大きなテレビ・スクリーンが設置され、演壇に立つ各国首脳をハイビジョン映像でうつしだしました。

サミットをハイビジョンで中継したいという日本のNHKの申請と、会議を映像で盛り上げたいという国連の希望がマッチして、国連史上はじめて、総会会議場にハイビジョン・スクリーンが登場したのです。日本の最新技術が歴史的なミレニアム・サミットに花を添え、日本ではNHKテレビがハイビジョンの鮮明な映像でサミットの様子を詳しく伝えて、人々の関心も一段と盛りあがりました。またこの映像はアメリカやヨーロッパのテレビ局にも提供されています。

サミットが成功裡に終わった後、アナン事務総長はすべての国連スタッフに対して、サミット宣言の実現に向けて全力で取り組むよう指示すると共に、国連を21世紀の新たな挑戦に耐えうる強力な組織にする決意を表明しました。

国連の仕事がますます多岐にわたり、解決すべき問題はますます複雑で困難なものになっている今、アナン事務総長の指示と決意表明はまさに「国連の新たな出発」に向けての宣言だったと受け止められています。

日本の森総理大臣はミレニアム・サミットで「人間の安全保障を外交の柱に据える」と演説されましたが、国連にとっても「人間の安全保障」は中心的課題です。21世紀を「人間中心の世紀」にするために日本と国連が果たすべき役割は限りなく大きく、重要です。その間の意思疎通と連携がより良いものとなるよう東京の広報センターも懸命に努力する決意です。何とぞよろしくお願い申し上げます。



国連広報センター所長
高島肇久氏



発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学ビル8階

TEL: 03-5467-4451

FAX: 03-5467-4455

E-mail: unictok@blue.ocn.ne.jp